

紀ノ川農協宇田組合長よりみかんの利用の緊急の訴えが届きました。

みかんの危機に、組合員さんのご利用をお願いします。



紀ノ川農業協同組合
組合長 宇田篤弘

いつも、共同購入、宅配事業を通じてお世話になっております。

師走に入りようやく、気温も下がり、本格的な冬を迎えつつある今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

産地では出来秋の出荷最盛期を迎えて、活気に満ちた状況が生まれる頃ではありますが・・・。

果物は、まともに価格のつく品目はなく、

今年は様相が変わっています。実りの秋を迎えても、みかん、柿、りんごと、とにかく何もかもが、生産原価を大幅に割込むどころか、出荷経費さえでない事態に陥っています。

農家の悲鳴はとまらず、何ともしようのない「無力感」と「あきらめ」が広がっています。一向にくらしの見通しも立たない中で、中々果樹生産の先行きも見通しがもちにくい環境となっています。

今年のみかんは、極端な不作であった前年より二割程度多い生産見込みですが、夏場の干ばつにより小玉が多く、なにより高齢化が進み、2年前の三割程度も少ない生産量にまで減少していますが、それでもこの事態です。

たわわに実り、色づいた一面の段畑の光景はいつみても見事です。

先人が、長い年月を積み上げ営々と、開墾してきた値打ちあるみかん園も、収益性の悪化により、年々荒廃園が広がってきています。

蔓（かずら）が巻きつき、虫にやられて枯れてしまった木、みかん園の面影も残っていないほどに雑草まみれの放任園は、地域の景観を崩すだけではなく、病害虫の巣窟となり、更に園場の荒廃化を進めていくことになります。

少しでも、組合員の皆さんに、みかんの利用をお願いしたく筆をとりました。

国産の貴重な果物を育む、みかん園の崩壊は、地域経済や後継者問題へ多大な影響を与え、里山の景観などにも影響を与えます。

五月以降の干ばつや、そのあとの集中豪雨と日常化した異常天候の中ではありますが、順調に生育し、平年よりも少し酸度が高めですが、しっかりとしたバランスのある味覚に仕上がってきています。

私たちも最大限「おいしい」みかんの出荷に努めてまいりますので、少しでも多くの利用で、産地をご支援いただきますように、切にお願い申し上げます。

